

予防接種を受ける前に！



【インフルエンザ予防接種って受けないといけないの？】

インフルエンザの予防の基本は、流行前に予防接種を受けることです。

100%予防することはできませんが、重症化を予防できます。

インフルエンザに対する抵抗力がつくには、接種後約2週間程度かかり、その効果が持続する期間は約5か月間とされています。流行する前に接種しましょう。

【インフルエンザって、風邪じゃないの？】

風邪の多くは、のどの痛み、鼻汁、咳などの症状が中心です。熱もインフルエンザほど高くなく、重症化することはあまりありません。

一方、インフルエンザは、インフルエンザウイルスの感染によって起こる病気です。38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。

また流行性があり、短期間に多くの人へ感染が広がります。

**※高齢者がインフルエンザに感染すると、、、
持病が悪化したり、合併症を引き起こし
重症化しやすくなるので注意が必要です！！**



【インフルエンザの予防には、予防接種だけでなく、 日々の基本的な感染予防対策が大事です！】

マスクの着用	手洗・うがい	日頃からの健康管理
	手洗いは、石鹸を使って15秒以上洗いましょう。	十分な栄養と休養（睡眠）で体力や抵抗力を高めましょう。

1. 予防接種を受けることができない人

- ①明らかに発熱のある者：通常、体温が37.5℃以上を指します。
- ②重篤な急性疾患にかかっている者
「重篤かつ急性」の疾患にかかっている場合には、病気の進展状況が不明であり、このような状態においては予防接種を見合わせるのが原則です。
- ③予防接種の接種成分によって、アナフィラキシーショックを起こしたことが明らかな者
「アナフィラキシー」というのは通常接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のこと

です。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

- ④インフルエンザの予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられた者、及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を起こしたことがある者
- ⑤その他、医師が不適当な状態と判断した場合
上の①～④に入らなくても医師が接種不適当と判断した時は接種できません。

2. 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ①心臓血管系疾患、腎臓（じんぞう）病、肝臓病や血液疾患、その他慢性的の病気で治療を受けている。
- ②今までにけいれんを起こしたことがある。
- ③今までに免疫不全の診断がされている、及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる。
- ④間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患を有している。
- ⑤接種しようとする接種液の成分に対してアレルギーを起こすおそれがある。

3. 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- ②インフルエンザワクチンの副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③接種後1時間を経過すれば、入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ④接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、接種部位を清潔に保ち、激しい運動、大量の飲酒は避けましょう。
- ⑤接種後、接種部位の異常反応や体調変化がみられた場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

4. 副反応について

まれに接種直後から数日中に、発疹、じんましん、紅斑、痒み等があらわれることがあります。また、発熱、悪寒、頭痛、だるさの全身症状や、接種部位が赤みをおびたり、腫れたり、痛み等の症状を認めることもありますが、通常、2～3日中に消失します。重大な副反応として、まれにショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管浮腫等）があらわれることがあり、そのほとんどは接種後30以内に生じますが、まれに接種後4時間以内に起こることもあります。

<問い合わせ先> 保健福祉課 健康増進係 ☎ 0997-69-4514